

こどもと発熱

2003.12.01

上磯町に小児科を開業しました。多くのお子さんたちに出会い、日々楽しく診療させていただいております。11月下旬から発熱と嘔吐・下痢を伴う胃腸炎が流行しているようで、せっかく咳と鼻が治ったのにまた病院通いをしなければ！と思われているでしょう。

毎月のように発熱をして心配・・・といって、診察が終わると元気にプレールームに突進する子。こどもって正直だなあ、熱だすの仕事だもん。お母さんの気持ちもわからないことはないけど、お薬で症状を和らげて、後はこどもの元気さで治すんだ！そんなことを心の中で思っています。

熱をだす原因はさまざまです。でも、ほとんどが抗生物質を必要としないウイルス感染です。風邪の症状を出すウイルスはよく知られているもので、230くらいあると言われますから、毎月1つずつかかったとしてもぜんぶかかるのに20年近くかかります。

こどもは元気の塊ですから、熱が出ていても元気がよければ多くの場合心配なことはありません。うちの子は40なんです！とお母さんは今にも泣きだしそうですが、熱の高いことと、病気の重いことはいつもいっしょではありません。どうしても熱の高さに一喜一憂してしまいますが、医者側で知りたいことは熱の経過もさることながら、普段の状態と比べて元気がいいのか悪いのかなのです。いつもいっしょにいてこどもの状態をよく見ているお母さん、お父さんしかわからないことを診る側に伝えて診療の一助にしてください。

熱が出たときには、体を冷やしてあげること、水分をふだんより多めに補給すること、掛け物・着る物を調節して、体に熱がこもらないようにしてあげることが大切です。ここまでしてそれでも熱で辛そうなら座薬などの熱さましを使ってあげてください。熱が下がって元気が出てきたら、それで安心しないで水分補給に努めてください。そして、熱が下がったらちょっとだけ体力の回復を待ってから普段の生活に戻してくださいね。次の風邪のウイルスに戦う力を蓄えるためにも。